

星なかま★ひめじ

Hoshinakama Himeji



2014年1月4日
しぶんぎ座流星群で観測はじめ
姫路市小赤壁にて 撮影井上毅

252号

面白さと難しさを再認識

アイソン彗星長い旅



太陽に接近する前のアイソン彗星(11月22日、市立天文科学館で撮影)



アイソン彗星は多くの仲間とともに冷たい空間をさまよっていました。

大彗星になると期待されたアイソン彗星は、太陽をかすめ、バラバラになってしまいました。師走の空に長い尾を引いた姿を観測できると期待していましたが、大変残念です。天文学の面白さと難しさをあらためて知った出来事でした。

46億年前、アイソン彗星は、太陽系の他の天体とともに誕生しました。氷と岩石が混じった1キロほどのカタマリで、誕生してすぐ木星の重力によって、太陽から10兆キロ(約1光年)という太陽系外へ飛ばされました。その果てまで飛ばされたアイソン彗星の歴史を振り返ってみましょう。ともいえる長い時間、

アイソン彗星は多くの仲間とともに冷たい空間をさまよっていました。500万年前、アイソン彗星に旅立ちの日が訪れました。何がきっかけなのかはわかりませんが、かすかな重力バランスの変化によって太陽にまっすぐ向かっていきました。小さな旅人は今年10月に火星軌道、11月初旬に地球軌道、中旬に金星軌道、下旬には水星軌道の内側に入りま

た。この熱さでし、彗星は明るくなり、尾を引いた姿が各地で観測されました。期待も高まってきましたが、この時すでにアイソン彗星の本体は形を保つ限界に達してしま

した。11月29日未明(日本時間)、太陽をかすめたアイソン彗星の表面温度が2700度まで上昇。鉄も溶ける灼熱に耐えきれず崩壊、宇宙のちりになっていきました。一連の様子は太陽観測衛星で観測され、世界中の天文愛好家を落胆させましたが、天文学的には貴重な記録となりました。

いつの日か(それは何万年後のことかもしれません)、アイソン彗星から放出されたチリが地球の大气に飛び込んで小さな流れ星になることでしょう。アイソン彗星の長い旅は、この時本当の終わりを迎えます。(学芸員 井上毅)

2013.12.2 神戸新聞

天体ショー 今度こそ



長い尾を引くラブジョイ彗星=14日午前5時半、姫路市豊富町(井上毅学芸員が赤道儀を使って追尾撮影)

「ラブジョイ彗星」23日太陽最接近

今年9月に発見されたアイソン彗星の級ほどの明るさで、最接近は11月29日未明(日本時間)に、近づくのは午前5時23分、太陽に最接近する関係も「今度は消えずに」5時半ごろ、東北東の「世紀の大彗星」と呼ばれる高かったアイソン彗星に注目。アイソン彗星は4等の双眼鏡などを利用すれば観測できるという。

午前5時すぎ、東北東に

今年9月に発見されたアイソン彗星の級ほどの明るさで、最接近は11月29日未明(日本時間)に、近づくのは午前5時23分、太陽に最接近する関係も「今度は消えずに」5時半ごろ、東北東の「世紀の大彗星」と呼ばれる高かったアイソン彗星に注目。アイソン彗星は4等の双眼鏡などを利用すれば観測できるという。

今年14日に徳島県牟岐町で撮影に成功した東亜天文学会会員の田村竜一さん(46)は神戸市長田区は「24、30日ごろが月明かりの影響が少なく、観測しやすい」と指摘する。

アイソン彗星は太陽に最接近した11月29日未明に消滅。太陽に近づきすぎ、熱や重力で崩壊して蒸発したとみられるという。ラブジョイ彗星はやや遠い位置を通過するため、明石市立天文科学館の井上毅学芸員は「最接近後も当面、夜空を飾るのは間違いない」と話している。

(武藤邦生)

2013.12.21 神戸新聞